

# 令和2年度 辰野中学校キャリア教育「新しい道を選ぶために」

## ～三年間の学習を終えて～

辰野中学校 清都しのぶ

### 1 はじめに

本校では、キャリア教育の学習において、数多くの辰野町の大人の生き方や考え方を学びながら、「その学年なりの【仕事観】【人生観】を持つこと」を目標として取り組みを行っています。キャリア教育の中心的活動ともいえる職場体験学習においても、「14歳なりの仕事観を持つ」という目標で学習を進めています。生徒たちが最初に仕事について考えるきっかけとなるのは、1学年で行われる「おしごとチャレンジ」です。辰野町の事業所が一同に集まり、生徒の「仕事に対する疑問」に答えるものです。※「おしごとチャレンジ」については、昨年度のキャリア教育委員会の記事をご覧ください。幸いです。

この「おしごとチャレンジ」は今年（令和二年度）の三年生が一年生の時に始まった学習活動です。今年度の三年生は本校で「おしごとチャレンジ」を経て「職場体験学習」に臨み、今年度は「新しい道を選ばずために」と題した学習を行って三年間のまとめを行った最初の学年です。その三年生のキャリア教育の軌跡をご紹介します。

### 2 一年次「おしごとチャレンジ」

職場体験が単なる「お仕事の体験」ではなく、「仕事とは何なのか」「仕事とは人生の中でどんな役割を持つのか」ということをつかみ、そのために今の自分ができることは何か、ということを考える機会にしてほしいと考えて行われたのが「おしごとチャレンジ」です。

#### ① 「おしごとチャレンジ」の概要

参加いただく事業所の数のブースを作り、始めに基調講演をお聞きした後、生徒は事前に決めたブースを回りながら仕事に対する考え方や思いについて対話します。15分ずつ3ブースを回り、最後に学んだことの共有の時間を取り、学びを深めました。

企画運営は有志生徒で組織した職場体験実行委員が行いました。また大人の実行委員として、教員の他に教育委員会・商工会・辰野町役場産業振興課、そして住民・行政・起業をつなげて町おこしのアクションを起こす起点として立ち上げられた TUGBOAT 代表である宮原陽子さん、伊藤優さんに産官学をつないでいただきました。

この町の実行委員と中学生の実行委員が話し合いをして、概要を決めていきました。

#### ② 当日の様子・生徒の感想

- ・体育館に入ると思っていたよりも多くの方が来ていて、ポスターや旗があったりして講師の方の気合いを感じました。三つの事業所の話はどれもおもしろく、将来の役に立ちそうな言葉もたくさんいただきました。三つ聞いただけでも、「辰野町でいろんなことをやっている方がいるんだな」ということを感じました。仕事



に対する見方も少し変わったし、貴重な経験をさせていただきました。

- ・僕は正直、「大人」というものに抵抗を感じています。もちろんよい大人もいます。でも、政治で言い訳を試みたり、自分の判断の善し悪しが付かない大人もたくさんいます。(中略)でも今日来てくれた大人の方の話を聞いて、仕事に向き合うってこういうことだということがわかりました。自分の仕事に対する誇りであったり、尊敬であったり、そういうものが講師の方の話や表情から伝わりました。そして自分の仕事を楽んでいるのもわかりました。あの大人達の中に僕が想像していた「大人」はいませんでした。僕は今日の体験で、お金の何倍以上に価値のあることを教えていただきました。忘れることができない体験です。講師の方に感謝しています。

### 3 二年次「職場体験学習」

#### ①対話重視の「職場体験」

「おしごとチャレンジ」を経て、生徒たちは二年生の5月に2日間の職場体験を迎えました。生徒達は事前に打ち合わせに職場に伺いますが、職場体験が単なる「仕事体験」にならないように、全ての職場に職員が回り、職場体験担当者の方々に以下のことをお話ししました。

- ・今までの学習（「おしごとチャレンジ」の流れ、生徒の学び）の紹介
- ・職場体験後の秋に各自「仕事とは何か」という考えを持ち、パワーポイント（以下PP）をもちいてそれを発表する会を全員が行うこと
- ・職場体験は体験だけでなく、その仕事について方の「仕事観」を持ち帰ることになっているので、生徒と「仕事について語る時間」を少なくとも30分は取っていただきたいということ

生徒は「今の仕事観・まだ疑問に残っていること・自分の長所や短所」を記した自己紹介カードを作成して持って行きました。それぞれ職場の方と仕事について語り、帰ってきた生徒たちは今現在の「仕事観」を学習カードにまとめました。

#### ②生徒の発表会「仕事とは～14歳の仕事観～」

職場体験の学びを元に、生徒はPPを用いてプレゼンテーションの準備をしました。生徒はPPを使うのが初めてだったため、辰野高校の商業科の先生にPP作成講座を開いていただきました。この講座で同時に「職業科」について学ぶ時間を取り、三年次の進路学習につなげました。

#### ～生徒の発表原稿より～

- 僕は仕事とはお金のために働くことだと思っていました。お金がなければ生活は出来ないし、正直仕事を楽しくやる、という考えはありませんでした。でも、「おしごとチャレンジ」で「仕事とは任された仕事に、誇りを持って取り組むことだ」という大人の考えを聞き、また職場体験では、「お金は〈人のために働く〉ことで後からついてくるものだ」という考えを学びました。お金をかせぐということは大切です。でもそこに僕は「誰かのために誇りを持って取り組むのが仕事である」という考えを合わせて持つようになりました。」(概要)
- 私は、仕事とは「生活のため」にやる面倒で大変なことだ、という思いがありました。でも、職場体験を通して、生活のためという考えはもちろんたいせつだけど、「仕事は誰かを支えるもの」という

考えになりました。お金のためだけでなく、自分の周りの人やお客様のために頑張ることで本当の楽しさが生まれてくるのかな、と思います。今の自分にはまだやりたい仕事はないけれど、いつか誰かを支える仕事を見つけていきたいと思います。(概要)

#### 4 三年次「新しい道を選ぶために」

##### ①地域おこし企業人 福田幸子さんから学ぶキャリア教育

辰野町には今年7月から株式会社パソナグループより福田幸子さんを地域おこし企業人としてお迎えしています。今春、福田さんとお話しをする機会をいただき、本校のキャリア教育にご協力いただくことをお願いしました。その頃からコロナ禍に入り、お会いしての打ち合わせが不可能になったため、東京と辰野で多いときは週に一度のペースでZOOMを用いて三ヶ月打ち合わせを進めました。

福田さんは(株)パソナグループのグループ人財開発部で新入社員の研修を担当されていて、キャリア教育に関する知識はとても豊富でしたが、さらに加えて文科省の指導書を何回も熟読いただき、私もZOOMと一緒に学習をさせていただきました。そして決まったのが以下の学習です。

1年学習テーマ	2年学習テーマ	3年学習テーマ
<p><b>【自分を知らう、仲間を知らう、町を知らう】</b></p> <p>新たに出会った仲間の中で、自分の役割や仲間の役割に気づき、自分の将来を考える中で、将来に向けて今の学習の必要性や大切さを理解する。辰野町にある仕事とその役割を知り、働く人々の様々な思いに触れる。</p>	<p><b>【仕事って何?】</b></p> <p>「おしごとチャレンジ」や職場体験学習を通し、世の中の仕事や働く様々な日との姿勢や生き方に触れ、様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方について考える。仲間と考えを共有し、伸ばし合う人間関係について理解する。</p>	<p><b>【どう生きるか ～対話の中で学ぶ～】</b></p> <p>友や大人と関わる中で「世の中のために、自分は何ができるのか」を考え続け、「自分の大切にしていること(価値観)」を知り、よりよい生活、学習、進路や生き方を目指して自らの生き方について考える。</p>

##### ②三年次内容として

###### I 福田さんの生き方を知る

「人に学ぶ」自分はどんな生き方をしたいのか考えるきっかけとして、福田さんの人生を知る。

###### II 自分を知らう、仲間を知らう

生き方を決めるのは自分。自分は何が好きで、何にワクワクするのかをまとめていく。

互いに発表を行い、他人にも自分と同じように大切な人生があることを知る。

###### III 身近な大人の仕事&生き方調べ Part 2

一年次におこなった「身近な大人の仕事&生き方」を調べる活動。「おしごとチャレンジ」「職場体験」や二年間の経験を経て、「人生」について身近な大人に再度聴く。合わせて「傾聴」の姿勢を学ぶ。



#### IV 今の自分が大切にしたい「人生のこと」

1～3年の学びを振り返り、大人に話を聞く中で今の自分の「仕事観」「どんな大人になりたいか」「何を大切にしたいか」を考え発表し合う。

三年の学習は、「とことん自分に向き合う」学習でした。また今までの学習がループ状になり、一年の学習や二年の学習を振り返りながら今の自分の立ち位置を確認するような時間でした。以下が授業を受けた生徒の感想です。



○福田さんが授業に来てくれました。福田さんは人生や生き方がジェットコースターみたいだからドドンパさんと呼ばれているそうです。ドドンパさんの人生はすごく楽しそうでした。「今の自分が何を大切にしているか」ということを考えて人生を選んできたからだと思います。私もそんな人生を送ってみたいと思いました。

○ドドンパさんは、話し方も話している内容もすごくパワフルでした。「自分の好きなことや大切にしていることを知って生かす」という考え方にとても納得しました。僕は小さい時から体を動かすことが好きだったので、これからもその時間を大切にしたいと思います。

○僕は自分の父に「なぜその仕事を続けているのか」を聞いてみました。僕が小さい時から続けている仕事だから、やめたいと思ったことはないのかな、と思ったからです。

父の話で心に残ったのは「誰かの入らない物を誰かの大切な物に出来る」という仕事(リサイクル)の考え方です。自分が面白いと感じ、なおかつ人の役に立てるという仕事だから、父はこの仕事を長く続けてきたのだと思います。

父はこの仕事を選んでとても満足しているそうです。仕事が忙しくて疲れていても、家族と一緒に生活に困ることなく生活出来ているのがとても幸せだ、という父の考えを聞いて、僕もそういう幸せを大切に生きていきたいと思いました。父と母は年をとったらゆっくり過ごしたいと言っているのので、それを叶えてあげられるようにしたいです。

○仕事とは自分が生きる為にお金を稼ぐことが大事だけど、学習を通して「誰かが生活しやすくなるために働く」という思いが自分の中に生まれました。だから今は介護の仕事にとても興味があります。

僕の父は、始めは夢だった仕事に就いたそうですが、辞めてしまったそうです。そのあとに自分の興味あるものを探して行って、今の建設業に就いたという話が心に残りました。父のように、自分が生きていく中で自分に合った職業を見つけることが、今の僕には大切だと感じました。

#### 5 三年間の学習を通して

辰野中学校の3年生の生徒は、小学生の時にも職場体験をおこなった学年です。そのせいか一年次より「仕事について学ぶ」「人生について考える」ということに興味関心を持って学習に取り組めたように思います。

三年間の学習を終えて心に残るのは、「学びのループ」が生徒も私たちにも実感できた点です。同じ職場体験でも、小学生の時と中学生で行うときにはその根本にある「何のために仕事をするのか」という思いが全く変化します。「仕事とは」「人生とは」という生徒なりの答えが生徒により違い、その答えが次々と変化していくことに、生徒も私も驚きました。

「身近な大人に仕事を聞こう」という学習は1年次にも行ったのですが、そのときには多くの生徒が「どんな仕事か、どんな資格が必要かわかった」「大変な仕事を毎日やっていて父や母はすごい」という感想で終わっていますが、3年次に行ったインタビューでは、ほとんどの生徒がその「生き方」に気づき、自分なりの価値観に比べて感想を書いてきました。質問事項にもよるかもしれませんが、二年間の学びの中で仕事や人生の価値観を持った生徒たちだからこそこのインタビューであったと思います。

今、その生徒達は自分の進路選択に向かっています。その変化として感じることは「自分の道は自分で選ぶ」という姿勢です。前期選抜の生徒たちは、多くの生徒が高校選択の意志を志願理由書に迷いなく書いてきました。志願理由書に中学校のキャリア教育の学びを書く生徒も見られました。「高校三年間を、あなたの人生の中でどんな三年間にしたいの?」と問いかけると、とまどうことなく答える生徒が多く、その姿はとても頼もしく見えます。

生徒の発達段階によってももちろん差はありますが、キャリア教育の学びは確実に生徒の中で積み重なっているのだな、と感じます。生徒達がこの先、高校やその先の進路でどんなキャリア教育を積み、そのループの中でどんな学びを重ねていくのか、とても楽しみです。

私自身も新たな試みとなる学習を三年間積ませていただきました。その機会を与えてくださった辰野町と、携わってくださった全ての方々に感謝の思いでいっぱいです。今後も生徒の学びを深めるキャリア教育のあり方を考えていきたいと思えます。